

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520065

研究課題名(和文) 大谷光瑞とアジア - その開教土壌の歴史的考察 -

研究課題名(英文) OTANI, Kozui and Asia-Historical Study of the propagation of base of Buddhism

研究代表者

柴田 幹夫 (SHIBATA, MIKIO)

新潟大学・国際センター・准教授

研究者番号：30293244

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：大谷光瑞のアジア諸地域における活動を歴史的に考察した。研究成果としては、研究代表者の編になる『大谷光瑞とアジア - 知られざるアジア主義者の軌跡 -』(勉誠出版、2010年、本文580ページ)、『大谷光瑞 - 「国家の前途を考える」』(勉誠出版、『アジア遊学』156号、本文216ページ、2010年)において、多くの若い研究者を組織して大谷光瑞のアジアにおける活動を明らかにした。また研究分担者、白須浄眞の編になる『大谷光瑞と国際政治社会 - チベット、探検隊、辛亥革命 -』(勉誠出版、2011年、本文375ページ)では、近代国際政治社会のなかで大谷光瑞を中国近代史あるいは、日本近代史のなかで位置づけた。

研究成果の概要(英文)：I have discussed the activities of OTANI Kozui in the history of Asian region. Many young researchers and I organized a research group and have tried to bring the activities of OTANI Kozui in Asian region to light. Our research results are in "OTANI Kozui and Asia -the unknown Asianism's trace -" (2010, BENSEI Publication 580pp), and "OTANI Kozui-To think of his Nation's Future-" (2010, "Asia Leisure Education" 216p No.156, BENSEI Publication). Also SHIRASU Joshin, one of the group members have published "International Politics and Society -Tibet, Expedition and Xinhai Revolution-" (2011, BENSEI Publication) and he discussed about OTANI Kozui in the Modern Chinese history and the Modern Japanese history.

研究分野：インド学・仏教学

科研費の分科・細目：2803

キーワード：国際情報交流 大谷光瑞 浄土真宗 本願寺(西本願寺) アジア 国家の前途

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 大谷光瑞の研究は、主として「大谷探検隊」関係が中心となっており、その研究は歴史も古くかなりの研究成果も見られる。とくに出土文物研究は、中国古代史を理解する上で日本、中国の学会に大きく貢献したとこはいうまでもない。

ただ、「大谷探検隊」の主宰者であった大谷光瑞の研究がほとんどなされていなかった。光瑞を取り巻く時代は明治、大正、昭和の時代にわたっているが、社会の変動期のなかで光瑞はアジアに関心を寄せ、アジア各地を遊歴するのであった。またアジア各地で生活をし、様々な情報を発信していた。私は大谷光瑞をアジア主義者と呼んだが、このことはアジア各地で生活をし、現地主義者であったことを意味している。そのような時代背景のなかで大谷光瑞を考えていこうとするのがこの研究の目的であった。

(2) 研究分担者である白須浄眞(広島大学教育学研究科)によって大谷光瑞個人の研究が始められた(『忘れられた明治の探検家渡辺哲信』中央公論社、1992年)が、その研究に触発されて大谷光瑞を日本と中国の近代史のなかで考えようとした。白須浄眞の指導を受けて、2010年8月に、拙編『大谷光瑞とアジア - 知られざるアジア主義者の軌跡 - 』(勉誠出版、2010年)を刊行し、大谷光瑞研究の基本的な立場を明らかにした。

## 2. 研究の目的

「大谷探検隊」だけでなく、中国やアジアの近代史のなかに関わっていく大谷光瑞の姿を明らかにするのが、この研究の目的である。具体的に記せば、孫中山(孫文)政府の顧問に就任したり、中国革命を支援したり、またトルコ革命などにも深く関与し、「大東亜審議会委員」や「台湾調査会員」、「内閣参議」「内閣顧問」などの役職を歴任するなど深く日本やアジアと関わった。大谷光瑞のアジア諸地域での活動は、まさに国家の対外拡張政策と軌を一にする。近代仏教史のなかで今まで顧みられることのなかった海外開教との関係も大谷光瑞を軸として考えていきたい。

## 3. 研究の方法

今までほとんどの研究者が使用したことのない『教海一瀾』(龍谷大学図書館蔵)や『中外日報』それに「外務省外交史料(外交文書)」の精読を通じて、新しい知見を分析した。またアジアの諸地域を訪問し、当地の図書館および文書館、檔案館などで資料調査を行った。はじめに計画していたマレーシアやロシア・サハリンに行くことができなかったのは痛恨の極みである。

## 4. 研究成果

(1) 従来使用されなかった史料たとえば『教海一瀾』や「外務省外交記録」(外交文書)などを使用したことで、今まで明らかにならなかったことが、史料を通じて明らかになった。例えばウラジオストク本願寺の敷地問題では、大谷光瑞が外務大臣に提出した「陳

情書」が外交問題となった。また辛亥革命の際に本願寺が果たした功績などが「外交文書」を通じて明らかとなった。これにより近代仏教史、日本近代史のなかに大谷光瑞を位置づけることができた。

(2) 海外調査活動および、海外での発表を通じて、新たな知見が獲得できたこと。また研究者のネットワークが構築されたこと。

(3) 国際シンポジウムを開催した(2013年0月5日、於京都市西本願寺伝道院、「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」)こと。とくに中国や台湾から研究者を招いて発表あるいは講演をしていただいた。たとえば中国での大谷光瑞の評価などは、従前のそれよりもかなり変わってきたことが報告された。

(3) とくに台湾での調査において、高雄の「逍遙園」(大谷光瑞の旧邸)保存運動に関わり、今後協力していくことになった。また今後台湾における戦前の日本仏教の開教方法など、新たに調査する課題を見つけた。今後は他宗派の研究者と共同して台湾での開教の実態を探っていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

1. 柴田幹夫「大谷光瑞と台湾 - 高雄「逍遙園」を中心に - 、『宗教研究』無、87巻別冊、2014年、p259-260。
2. 柴田幹夫「日華学堂日誌 1898 ~ 1900」『新潟大学国際センター紀要』、新潟大学国際センター、有、2013年、p23-85。
3. 柴田幹夫「台湾「西本願寺広場」と「逍遙園」について」『東方』無、2013年、p2-p7。
4. 柴田幹夫「大谷光瑞與另一個側面(中文)」『黄文弼與中瑞西北科学考查团国際学術検討会論文集』新疆師範大学黄文弼中心、無、2013年、p495-509。
5. 白須浄眞「20世紀之初内陸亜細亜調査活動研究の新視点 - 斯文・赫定、大谷光瑞、清政府官僚(那桐、張蔭棠)的国際政治社会(中文)」『黄文弼與中瑞西北科学考查团国際学術検討会論文集』新疆師範大学黄文弼中心、無、2013年、p479-494。
6. 白須浄眞「大谷探検隊員柱本瑞俊と明覚寺資料」、『広島大学大学院教育学研究科紀要』無、62号、2013年、p375-384。
7. 白須浄眞、江間さやか「安満星(柱本瑞俊)の英領インド調査(1907年~1909年)」、『広島大学大学院教育学研究科紀要』無、62号、2013年、p385-394。
8. 柴田幹夫「大谷光瑞とアジア」『富山県日中友好協会新聞』(富山県日中友好協会)、無、2012年4月から2013年1月にかけて4回にわたり連載した。
9. 柴田幹夫「シンガポール本願寺と日本語学校」『国際ポジウム多言語政策と日本語教育』論文集、(九州大学留学生センター、郭俊海研究室編)、無、2012年。P45-55。
10. 柴田幹夫「大谷光瑞とアジア」『東アジア - 歴史と文化』(新潟大学東アジア学会)無、第21号、2012年、p62-p67。

11. 柴田幹夫「大谷光瑞とアジア」『新潟親鸞学会紀要』、新潟親鸞学会、無、第9集、2012年、p71-77。

〔学会発表〕(計13件)

1. 柴田幹夫「大谷光瑞と近代中国」山東師範大学社会科学フォーラム、2013年10月27日、中国山東師範大学。
2. 白須淨眞「大谷光瑞と近代中国」山東師範大学社会科学フォーラム、2013年10月27日、中国山東師範大学。
3. 柴田幹夫「大谷光瑞與另一個側面(中文)」、黄文弼與中瑞西北科学考查团國際學術檢討會論文集、2013年10月19日、中国新疆師範大学。
4. 白須淨眞「20世紀之初内陸亜細亞調查活動研究の新視点 - 斯文・赫定、大谷光瑞、清政府官僚(那桐、張蔭棠)的國際政治社会(中文)」、黄文弼與中瑞西北科学考查团國際學術檢討會、2013年10月19日、中国新疆師範大学。
5. 柴田幹夫「大谷光瑞と台湾」、第72回日本宗教学会、2013年9月7日、國學院大学。
6. 柴田幹夫「台湾「西本願寺広場」と「逍遙園」について」、第21回日本近代仏教史研究大会、2013年5月11日、大谷大学。
7. 柴田幹夫「日華学堂と仏教者の役割」日本近代仏教史研究会夏期セミナー、2012年9月3日、身延山大学。
8. 柴田幹夫「日華学堂について」、中国留学生史研究会、2012年3月30日、神奈川大学箱根保養所。
9. 柴田幹夫「大谷光瑞と中国」富山県日中友好協会新春講演会(招待講演)、2012年2月11日、富山第一ホテル。
10. 柴田幹夫「満州(中国東北部)における西本願寺付属日本語学校について」第二回中日韓朝原簿文化比較研究國際学会、2011年8月22日、中国吉林省延吉市延辺大学。
11. 柴田幹夫「大谷光瑞師と中国」、夏期仏教大会、2011年7月30日、三重県桑名市法盛寺。
12. 柴田幹夫「大谷光瑞とアジア」新潟大学東アジア学会、2011年6月11日、新潟大学。
13. 柴田幹夫「大谷光瑞とアジア」、新潟親鸞学会、2011年6月16日、新潟県加茂市廣園寺。

〔図書〕(計4件)

1. 柴田幹夫著『大谷光瑞の研究 - アジア広域における諸活動 - 』(勉誠出版、2014年、p1-p365)
2. 白須淨眞著『大谷探検隊研究の新たな地平 - アジア広域調査活動と外務省外交記録 - 』(勉誠出版、2012年、p1-p372)。
3. 柴田幹夫編『大谷光瑞 - 「国家の前途」を考える』(勉誠出版、『アジア遊学』156号、2012年)柴田幹夫「序言」p4-p8、柴田幹夫「清国巡遊誌を読む」p31-p46。
4. 白須淨眞編『大谷光瑞と國際政治社会 - チベット、探検隊、辛亥革命 - 』(勉誠出版、

2011年)柴田幹夫「辛亥革命と大谷光瑞」p189-p249。柴田幹夫「あとがき」p373-p375。白須淨眞「はじめに」 - 、白須淨眞「野村栄三郎による大惨事大谷探検隊の消滅と新・三次隊の編成 - 英国インド政府のカロルム・パス通過拒否とその余波 - 」p39-p110、白須淨眞「外務本省に提出された西藏問題に関わる一報告書 - 1912年(明治45)2月13日、西本願寺が提出した報告書の紹介とその解説 - 」p263-p298、白須淨眞「ダライラマ十三世による明治天皇への上書 - 献納品拒絶の顛末 - 「自明治四十五(一九一七)至大正六年(一九一七)西藏・建頼喇嘛ヨリ我皇室へ献納品拒絶一件」と題された外務省外交記録の紹介と解説 - 』。

〔その他〕

(1) 新聞掲載

- 『自由時報』(南部版)「重修「逍遙園」旧貌日監工之子帮忙」、2014年3月5日号。
- 『台湾フォーラム』、「日本統治時代の高雄「逍遙園」待たれる速やかな修復と再活用」2014年3月5日。
- 『中国時報』(台湾高雄版)、「日人追憶逍遙園」、2014年3月2日号。
- 『聯合報』(南部版)、「日籍監工後代逍遙園見証歴史」、2014年3月2日号。
- 『本願寺新報』「台湾に西本願寺広場」2013年2月20日号。
- 『本願寺新報』「戦前の台湾別院など進む保存事業」2013年5月1日号。
- 柴田幹夫『日中友好協会新聞(富山版)』「大谷光瑞とアジア」2012年4月1日、同7月1日、同10月1日、2013年1月1日。
- 『北日本新聞』「正常化40年交流の足跡たどる」2012年2月12日。

(2) 書評掲載

- 柴田幹夫編『大谷光瑞 - 「国家の前途」を考える』(勉誠出版、2012年) 關正宗『台湾佛教研究』一卷第二期、2012年12月。
- 白須淨眞編『大谷光瑞と國際政治社会 - 西藏、探検隊、辛亥革命 - 』(勉誠出版、2011年) 、『中外日報』、2011年10月23日。
- 『新潟日報』、2011年12月17日。
- 『山陰中央新報』2012年1月8日掲載。

(3) 國際シンポジウム「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」2013年10月5日、西本願寺伝道院にて開催。

- 『京都新聞』「功績、批判交え、多角的な考察」2013年11月5日号。
- 川邊雄大「國際シンポジウム 広域アジアにおける大谷光瑞の活動について」『東方』397号、2014年3月号。

(4) 柴田幹夫、國際シンポジウム「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」に寄せて、『近代仏教』21号、2014年6月発刊予定。

- (5) 柴田幹夫、図録「大谷探検隊と藤井宣正」  
「親鸞となむの大地 - 越後と佐渡の精神的風土 - 」p156。2014年4月26日から6月8日まで新潟県立歴史博物館で開催されている展覧会。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柴田 幹夫 (SHIBATA, Mikio)  
新潟大学・国際センター・准教授  
研究者番号：30293244

### (2) 研究分担者

白須 淨眞 (SHIRASU, Joshin)  
広島大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号：10330713

### (3) 研究協力者

野世 英水 (NOSE, Eisui)  
龍谷大学・非常勤講師

川邊 雄大 (KAWABE, Yudai)  
二松学舎大学・非常勤講師  
研究者番号：10468720